

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<情報システム科>

科目名	アプリケーション実習Ⅱ	
対象学生	情報システム科2年、高度情報システム科、情報デザイン科	
実務経験		
授業時間数・単位数	53コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	文書作成、及びプレゼンテーションができるようになり、かつ資格も取得することを目標として、問題演習などを中心に行います。	
授業の到達目標	サーティファイ Word文書処理技能認定試験3級の合格、及びプレゼンテーションができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、資格試験の合否、プレゼンテーションの実施結果及び平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	Microsoft Word クイックマスター基本編(ウイネット)、Word文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)、30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint(実教出版)	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
Word対策		
(1)Wordの基本		2
(2)文字の入力と編集の基本操作		2
(3)文書の編集		2
(4)文書の印刷		2
(5)文書の作成		2
(6)表を使った文書の作成		2
(7)図形や画像を使った文書の作成		2
(8) 総合学習問題		2
(9) 模擬試験プログラム活用等による演習		10
Powerpoint対策		
(1)プレゼンテーションの作成と管理		2
(2)テキスト、図形、画像の挿入と書式設定		2
(3)表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入		2
(4)画面切り替えやアニメーションの適用		2
(5)複数のプレゼンテーションの管理		2
(6)プレゼンテーション資料の作成及び発表練習		17
合 計		53
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	総合実践Ⅱ	
対象学生	情報システム科２年、高度情報システム科、情報デザイン科	
実務経験		
授業時間数・単位数	３０コマ・２単位（左記を標準とし、学校及び個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔 〇 〕・演習〔 〇 〕・実習〔 〇 〕	
授業の概要	他の科目に分類されない下記のような授業を行います。 １．学校行事の準備、実施などの総合的な学習 ２．全科目の学習状況を確認し、必要な科目の補習 ３．教育上、有益と認められる知識や技術に関する特別授業	
授業の到達目標	上記「授業の概要」のそれぞれの内容について下記の目標を設けます。 １．協調性やコミュニケーション力などの育成、及び充実した学生生活を送ること ２．スケジュール管理能力の育成と各科目の遅延回復や弱点補強 ３．特別授業として実施する意義と授業内容の理解	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、Ａ（８０点以上）・Ｂ（６０点以上）・Ｃ（４０点以上）・Ｄ（４０点未満）とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(１)球技大会		４
(２)学園祭		４
(３)その他		２２
合計		３０
授業単位数		２

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職対策Ⅱ	
対象学生	情報システム科２年	
実務経験		
授業時間数・単位数	１４コマ・１単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義〔 〇 〕・演習〔 〇 〕・実習〔 〕	
授業の概要	就職活動を円滑に進めるための準備と、就業時に必要となる知識を得るためのセミナーなどを行います。	
授業の到達目標	希望企業への採用内定と就業時に必要となる知識を得ることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、Ａ（８０点以上）・Ｂ（６０点以上）・Ｃ（４０点以上）・Ｄ（４０点未満）とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(１)就職活動準備(履歴書等応募書類作成、面接練習など)		12
(２)企業説明会、就職関連セミナー等への参加		2
合計		14
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<情報システム科>

科目名	データベース構築	
担当教員の実務経験	Access等を使用したデータベース構築への従事	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	57コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	Microsoft Office Accessを使用し、データベース構築と操作を学習します。	
授業の到達目標	Microsoft Office Accessを使用した、基礎から応用的なデータベースの構築とデータベースに対する操作ができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、授業ごとに提出された演習課題によって評価します。	
準備学習・時間外学習	演習課題の実施が授業時間内に終わらなかった場合は、自己学習によって次回授業までに必ず終わらせておくこと。	
使用教科書・教材・参考書	Access 2024 テキスト 基礎編、Accessによるシステム構築問題集20XX-365	
授業上の注意点	MicrosoftOfficeAccessを使用します。 授業ごとに与えられた演習課題の実施時間は授業時間数に含めます。	
授業計画（内容）		コマ数
データベース基礎		25
(1)データベースとは		
(2)Accessの基本操作		
(3)テーブルの作成、フィールドプロパティの設定		
(4)クエリ作成		
選択クエリの作成、並べ替え・抽出条件の設定、パラメータクエリの作成、演算フィールドのあるクエリの作成		
(5)フォームの作成		
(6)レポートの作成		
(7)リレーションシップ		
自動結合、手動結合、参照整合性の設定と動作確認、連鎖更新、連鎖削除		
(8)クエリ/レポート応用		
集計クエリ、クロス集計クエリ、不一致クエリ、アクションクエリの作成		
グループ集計レポートの作成		
データベース応用		29
(1)住所管理システムの開発		
(2)メディア管理システムの開発		
(3)売上管理システムの開発		
(4)成績管理システムの開発		
(5)レンタルDVDシステムの開発		
データベース演習		3
(1)データベースの設計		
(2)データベースシステムの開発		
合計		57
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<情報システム科>

科目名	HTML・CSS応用	
担当教員の実務経験	Webサイトのメンテナンス業務	
対象学生	情報システム科 2年、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	66コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	HTML・CSSを習得し資格取得を目指し、Webサイト制作、JavaScriptを履修	
授業の到達目標	Webクリエイター能力認定試験 スタンドの合格、Webサイト実装	
成績評価方法と基準	Webクリエイター能力認定試験 スタンド試験結果、及び成果物	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	・Webクリエイター能力認定試験 スタンド 公式テキスト ・Webクリエイター能力認定試験 スタンド 問題集	
授業上の注意点	エディタ（Microsoft Visual Code）使用	
授業計画（内容）		
		コマ数
オリエンテーション、エディタの使い方		1
HTML、CSSの復習、HTML4と5の記述法の違い		10
トップページHTMLの作成		1
CSSの基礎、セレクター、外部CSSの読み込み、トップページのCSS作成		1
各ページ共通HTML作成とCSS作成		1
テキストと画像が含まれたメイン領域作成		1
箇条書き、画像を挿入		1
テキストの回り込みと解除、箇条書きスタイルの変更		1
テーブル作成、テーブルのCSS		1
フォーム領域作成、コントロール作成		1
フォーム領域のCSS、各種コントロールのスタイル調整		1
Webクリエイター試験対策① サンプル問題演習		3
Webクリエイター試験対策② 模擬試験 -1の演習		3
Webクリエイター試験対策③ 模擬試験 -2の演習		3
Webクリエイター試験対策④ 模擬試験 -3の演習		3
Webクリエイター能力認定試験 受験		1
Webサイト制作期間		10
Webサイト発表会①		1
JavaScript基礎		8
JavaScript実装Webサイト制作期間		13
JavaScript実装Webサイト発表会②		1
合計		66
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング応用（Java）	
担当教員の実務経験	プログラマ・システムエンジニア	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	49コマ・3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	・実際にプログラミングで動作を確認しながら、Javaの基本文法からオブジェクト指向プログラミングの初歩（クラス・インタフェース等）を理解します。 ・認定試験「Oracle Java Bronze」の合格を目指します。	
授業の到達目標	Javaの基本文法やオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し、認定試験「OracleJava Bronze」の合格、または同等のJavaプログラミングに関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	学習に遅延が発生しそうな場合は、授業時間外にも学習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	・オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE ・徹底攻略 Java SE Bronze 問題集	
授業上の注意点	極力プログラミングで動作確認しながら進めてください。	
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション及び環境確認		2
Java言語のプログラムの流れ		1
データの宣言と使用		2
演算子と分岐文		2
繰り返し文と繰り返し制御文		2
オブジェクト指向コンセプト		1
クラス定義とオブジェクトの生成・使用		4
継承		4
ポリモフィズムとパッケージ		5
問題演習（テキスト章末問題、問題集使用）		19
模擬試験・評価試験		6
タイピング向上		1
合 計		49
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング実践（Java）	
担当教員の実務経験	情報系企業でプログラマ、システムエンジニアとしてシステム開発に従事。	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	38コマ・3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	Javaプログラミング・コーディングの実技を通して、Javaによるシステム開発の考え方を学びます。 情報系企業でシステム開発経験のある講師が、企業の実態や経験も伝えながら、学生に仕事のイメージを持たせます。	
授業の到達目標	様々なプログラムを実際に作成し、実践に役立つコーディング技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。プログラミング課題、出席率、成果（達成目標）等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	独自制作テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
基礎プログラミング 基礎的な制御文・データ型の理解		4
CUIプログラミング① ソースファイルの分割		4
CUIプログラミング② 入力に応じた結果出力		4
CUIプログラミング③ 配列を利用した結果作成		4
CUIプログラミング④ プログラムの機能拡充		4
GUIプログラミング① GUIプログラミング基礎		4
GUIプログラミング② キー入力に応じた制御方法		4
GUIプログラミング③ 状況に応じたウィンドウ制御		4
GUIプログラミング④ 用途に応じたGUIパーツの活用		4
GUIプログラミング⑤ メニューバーを持つ「フリーブック」の制作		2
※現在、担当教員・企業で検討中のため、内容が変更となる可能性があります。		
合 計		38
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	情報処理検定試験対策Ⅱ	
対象学生	情報システム科、高度情報システム科、情報デザイン科、キャリアデザイン科、経営情報科、その他希望者	
実務経験		
授業時間数・単位数	135コマ・9単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報処理技術者試験を含む情報処理系検定試験の合格を目指す対策講座です。講義やテキスト学習、問題演習を通して知識を身につけ、更に過去問題や模擬試験により理解を深めて試験合格を目指します。 ※2026年度は応用情報技術者試験を対象とします。	
授業の到達目標	対象とする検定試験の合格を目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、すっきりわかる応用情報技術者 ・ 応用情報技術者試験科目A問題集・午後問題集、過去問題集	
授業上の注意点	受講前に基礎講義及び科目A問題演習が一通り終了していること。	
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション		2
午前問題演習		10
午後実践講義（全6分野）		38
午後問題演習		40
模擬試験 1		9
模擬試験 2		9
過去試験問題 1		9
過去試験問題 2		9
過去試験問題 3		9
合 計		135
授業単位数		9

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	各種検定試験対策	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科、高度情報システム科、情報デザイン科	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位 ※上記を標準とし、対象とする検定試験や個々の学生の状況により変更あり	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] ※対象とする検定試験により、各授業方法の構成・時間数に変更あり	
授業の概要	就職等に有益な検定試験について、本科カリキュラムに関連する授業がない場合や時期や時間割の制限により受講できない場合などに、学生各自が目標とする検定試験を選定し、学習方法やスケジュールを教員と相談の上、各種教材を利用して学習を行います。	
授業の到達目標	選定した検定試験の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、検定試験合格や模擬試験の結果、平常点等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは学習が不足する場合は、授業時間外での学習が必要です。	
使用教科書・教材・参考書	選定した検定試験のテキスト・問題集等	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
検定試験選定・学習計画立案		2
学習活動(テキスト学習、問題演習)		28
※関連するカリキュラムが他の科にある場合は、極力その授業計画に沿って受講する。		
合 計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング基礎（VBA）	
実務経験		
対象学生	情報システム科2年、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	50コマ・3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	Excel を基本とした業務改善・システム作成を目標とし、プログラム未経験者も考慮し、VBAの基礎から始め実践的なコーディングまでを学習していきます。	
授業の到達目標	VBAの基本文法を理解し、実用的なプログラミングを作成できるようになること目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。プログラミング課題、出席率、成果（達成目標）等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う場合があります。	
使用教科書・教材・参考書	Excel VBAの教科書 （SB クリエイティブ株式会社）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
VBAを始めるための準備と仕組み		2
オブジェクトでExcelの機能にアクセスする		2
VBAの基本文法		2
文字列、日付、時間の扱い方		2
配列・コレクションの仕組み		2
マクロの実行タイミング		2
エラー処理とデバッグ		2
外部ライブラリによるVBAの機能拡張		2
マクロのパーツ化、ユーザー定義関数		2
目的セルへのアクセス		2
セルの値と見た目の変更		2
VBAでのデータ処理		2
VBAでのファイル処理		2
集計・分析結果の出力		2
外部データとの連携処理		2
Web上のデータ取り込み		2
マクロ実行速度向上		2
シートを利用した入力インターフェイスの作成		2
ユーザーフォームの利用		2
オリジナルのプログラム作成		12
合 計		50
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ネットワーク応用	
実務経験		
対象学生	情報システム科2年、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	15コマ・1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	ネットワークを構成する様々な技術と、仕組みについての学習を通して、ネットワーク設計に必要な知識と具体的手法を習得します。	
授業の到達目標	ネットワークの仕組みを理解し、ネットワーク設計ができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。科目試験、出席率、成果（達成目標）等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	欠席した場合、補習を時間外に行います。	
使用教科書・教材・参考書	ストーリーで学ぶ ネットワークの基本（インプレス）	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
OSI参照モデルのレイヤーを判断することができる。		1
ポートとプロトコルの目的と利用を説明することができる。		1
ルーティングとスイッチングを説明することができる。		1
ネットワークトポロジーを説明することができる。		1
ワイヤレステクノロジーを説明できる。		1
クラウドの概念と目的を説明できる。		1
ネットワークサービスの機能を説明できる。		1
適切な配線ソリューションをあげられる。		1
ネットワーク機器を説明できる。		1
ネットワーク構成の違いを理解できる。		1
仮想化を説明できる。		1
WANテクノロジーを説明できる。		1
復習・問題演習		2
科目試験		1
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	自主課題学習	
対象学生	情報システム科2年、高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、個々の学年・学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義[]・演習[○]・実習[○]	
授業の概要	社会人になるにあたり、下記の観点から個人ごとテーマを設定し、各自スケジュールを管理しながら学習活動を行います。 ①専門学校で学習した内容の発展として、更に理解を深めたい知識や技術 ②内定先の業務を行うにあたって、事前に身につけたい知識や技術	
授業の到達目標	社会人になることへの不安を少しでも解消し、自信を持って仕事に就けるようになることを目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、学習態度、出席率、成果（達成目標）を総合的に判断し評価します。	
準備学習・時間外学習	必要に応じて、学外の図書館を利用したり、内定先企業と相談したりします。	
使用教科書・教材・参考書	各自の設定テーマに関する書籍	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
テーマ設定・学習計画立案		1
学習活動		29
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング基礎 (Python)	
実務経験		
対象学生	高度情報システム科、情報デザイン科	
授業時間数・単位数	50コマ・3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [O] ・ 実 習 [O]	
授業の概要	本講義では、初心者向けのプログラミング言語として広く普及している「Python」を用い、プログラミングの基本的な考え方と実装スキルを身につけます。	
授業の到達目標	単に文法を覚えるだけでなく、「課題を解決するためにどうプログラムを組み立てるか（論理的思考力）」を養うことを目的とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。プログラミング課題、出席率、成果（達成目標）等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う場合があります。	
使用教科書・教材・参考書	テキスト（未定）、プリント等を準備	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
ガイダンスと環境構築		2
データの種類（文字列、数値）、変数への代入、基本的な四則演算		2
if, elif, else による処理の分岐、比較演算子 (>, <, ==)		2
複数のデータを扱う「リスト（配列）」の基本、要素の追加・削除・参照		2
for 文を用いたリストの順次処理、range() 関数、繰り返しによる自動化の基礎		2
while 文、無限ループの回避、break と continue による制御		2
前半の総復習と中間演習		4
キーと値でデータを管理する「辞書（dict）」、変更できない配列「タプル」		2
関数の定義（def）、引数（ひきすう）と戻り値（返り値）、コードの再利用		2
Pythonに用意されている便利な関数（len(), max() など）や、math, random モジュールの使い方		2
テキストファイル（.txt）やCSVファイルの読み込み・書き込み、データの保存		2
よくあるエラーの読み方（構文エラー、型エラー）、try - except によるエラーハンドリング		2
サードパーティ製ライブラリの紹介（データ分析の pandas や、画像処理の Pillow などを用いた簡単な演習）		2
これまで学んだ知識を総動員し、各自で設定したテーマの簡易プログラム（例：おみくじアプリ、簡易電卓、データ集計ツールなど）を開発		12
開発したプログラムのコードレビュー（発表）、本講義のまとめと今後の学習ロードマップ		10
合計		50
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	G検定（ジェネラリスト）対策講座	
対象学生	情報システム科、高度情報システム科、情報デザイン科、キャリアデザイン科、経営情報科、その他希望者	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	日本ディープラーニング協会（JDLA）が主催する「G検定」の合格を目指すための対策講座である。AIやディープラーニングの基礎理論を数式なし（概念的）に理解し、それをどのようにビジネスに活用するか、また利用する際の法的なリスクや倫理的な課題は何かを体系的に学ぶ。ビジネスの現場で「データサイエンティストやエンジニアと対等に会話ができる、AI推進人材」の育成を目的とする。	
授業の到達目標	G検定の最新の出題範囲（シラバス）に対応する知識を網羅的に習得し、模擬試験で合格基準をクリアする。 人工知能の歴史、機械学習の主要アルゴリズム、ディープラーニングの仕組みを他者に説明できる。 AIに関連する法律（著作権法、個人情報保護法など）やガイドライン、倫理的リスクを理解し、適切なビジネス判断ができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
ガイダンスとAIの定義		2
人工知能の歴史と動向①		2
人工知能の歴史と動向②		2
機械学習の基礎と具体的手法①		2
機械学習の基礎と具体的手法②		2
機械学習の評価とデータの扱い		2
前半の総復習と中間テスト		2
ディープラーニングの基本		2
ディープラーニングの応用①（画像）		2
ディープラーニングの応用②（言語・時系列）		2
最新のAI技術と生成AI（GenAI）		2
AIの社会実装とビジネス活用		2
AIに関わる法律とガイドライン		2
AIの倫理とセキュリティ		2
模擬試験と直前対策総括		2
合 計		30
授業単位数		2